

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2009～2011

課題番号：21520717

研究課題名（和文）

前近代アフガニスタンに関する歴史地理的研究と地名コーパスの作成

研究課題名（英文）

A Study on the Historical Geography and Toponyms of Pre-modern Afghanistan

研究代表者

稲葉 穰 (INABA MINORU)

京都大学・人文科学研究所・教授

研究者番号：60201935

研究成果の概要（和文）：

前近代アフガニスタン地域の歴史地理に関して、文献資料、出土資料、フィールド調査報告といった材料を吟味、比較検討し、これを現代の地図と重ね合わせることで、正確な地理情報を獲得することを目指し、特に北部ハザーラジャート地域についてこれを精密に行って成果を発表することが出来た。また蒐集した情報と貨幣資料と比較検討し、海外の貨幣学者との協働のもと、前近代アフガニスタンの政治地図を作成する新しいプロジェクトへとつなげた。

研究成果の概要（英文）：

The research project has aimed at acquiring the better understanding on the historical geography of Afghanistan in the pre-modern time, by getting together various data from literary sources, archaeological findings, and the reports by modern field researchers. As a result, this has been done meticulously with the area in the northern Hazarajat, i.e., the northeastern part of Central Afghan Massif, in the early Islamic period. And the opportunity for the new research project to draw the political map in the pre- and early Islamic period, comparing the data collected so far with the coins, collaborating with the numismatists abroad, has been opened.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
2010年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2011年度	1,200,000	360,000	1,560,000
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：人文学・史学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：中央ユーラシア史・歴史地理

1. 研究開始当初の背景

中央アジア、南アジア、西アジアという異なる歴史世界の接点であるアフガニス

タン地域は前世紀後半以降の混乱した状況のゆえもあって現在も大きな注目を集めている。その際常に言及されるのが、こ

の地域の持つ複雑な歴史と民族構成のあり方であり、現在の国際関係からみた分析とともに、その歴史的文化的形成のあり方もまた重要な研究対象として研究者の間で強く意識されている。

ところがこの地域の詳細な歴史を解明するには実は多くの障害がある。もっとも重要なものの一つは、文献的情報の希薄さである。それはこの地域が前近代においては、隣接するいくつかの文明の中心領域において記述された文献資料の中で、常に「辺境」として断片的に言及されてきたことに由来する。これを補うために周辺の諸資料を博捜し、また出土文物から得られた知見を組み合わせる歴史の概略を記述する営みが、すでに一世紀以上にわたって続けられてきたが、未だ不明な点は多く残されている。その最たるものが、歴史地理的知識の絶対的な不足である。言うまでもなく文献に記載される事件を正しく理解するためにはその空間と時間の特定が不可欠である。当該地域について見れば、いくつかの際だった研究 (J.Marquart, *Ērānšahr nach der Geographie des Ps. Moses Xorenac'i*, Berlin, 1901; V. Minorsky, *Ḥudūd al-'Ālam: The Regions of the World*, Cambridge, 1982; 桑山正進『カーピシー＝ガンダーラ史研究』京都大学人文科学研究所、1990年、など) はあるが、当該地域の歴史地理に関して、網羅的かつ詳細な全体像を描き出すにはいたっていない。また 1970-80 年代に出版された L. W. Adamec による *Historical and Political Gazetteer of Afghanistan* (6 Vols., Graz, 1972-1985) は近現代の地名を網羅するが、前近代、特に古代、中世にかかわる地名については、ほとんど触れるところがない。

かくして、各種言語であらわされ、多様な資料の中で不完全に転写された歴史的な地名をどう解釈するかは、依然として困難かつ重要な問題でありつづけている。それ

は 1990 年代にアフガニスタン北部から発見された大量のバクトリア語世俗文書の内容研究においても、解決すべき大きな問題として立ちはだかっている (N. Sims-Williams, *Bactrian Documents from Northern Afghanistan I*, Oxford 2000 参照)。この問題については、(1) 既知の地名情報の総覧を作成し、歴史地理的あるいは言語学的分析の基盤を作成する、(2) それらの地名情報を現実の地形や地勢と照合し、可能な限り地図上に同定していく、という二段階の作業が有効な研究方法だと考えられる。すでに隣接するアム川以北の地域については、特に(1)に分類されるような作業に基づく興味深い研究成果が現れつつある

(P.Lurje, "The element -kaθ/-kand in the place-names of Transoxiana", *Studia Iranica*, 32-2, 2003 などを参照)。また、イラン高原についても新資料に基づくササン朝時代の行政地理に関する画期的な研究が行われつつある (R.Gyselen, *Le géographie administrative de l'Empire Sassanide*, Paris, 1989; idem., *Nouveaux matériaux pour la géographie historique de l'Empire Sassanide: Sceaux administratifs de la collection Ahmad Saeedi*, Paris, 2002)。本研究はそれら新たな研究業績を参照しつつ、その成果を歴史的アフガニスタン地域に拡大し、新たな研究の基盤を作成するとともに、出土文物等に関連する地理的情報をできる限り精密に確定しようとするものである。

2. 研究の目的

既存の歴史文献に登場する地名、19 世紀イギリスによる詳細な地域調査資料 (アフガニスタン国境策定委員会報告書) に見える情報などを精査し、そこから浮かび上がる重要な地名情報について、これを現在の地図、特に旧ソ連軍作成のアフガニスタン 20 万分の 1 地図など

から知れる地形情報を勘案した上で、できる限り同定し、さらなる研究のための基盤を作成することを目的とする。また、限定的ではあるが、新たに発見されつつある出土資料や考古学調査の成果をこれと照合し、出土文物の解釈と歴史理解のためのフレームワークを作成して、関連研究者と共有することを目指す。

3. 研究の方法

具体的には(1)19世紀にイギリスによって行われた詳細な地域調査資料(アフガン国境策定委員会報告書 British Library 所蔵資料)を精読し、同時に歴史文献に登場する関連地名のコーパスを作成する、(2)旧ソ連軍作成のアフガニスタン 20 万分の 1 地図(*Карта Афганистана*)を用い、上述の地名を可能な限り地図上に同定する、(3)その成果をもとに、未解明歴史的地名の同定を試みる、という三つのステップを踏んで研究を遂行し、前近代歴史地理研究のたたき台となる地名コーパスを完成させる。さらに可能な部分については、これをウェブ等を通じて公開する予定である。

4. 研究成果

研究成果としてはおおよそ以下の三つに分類できる。

(1) 文献研究

アラビア語地理書における歴史的アフガニスタンおよび周辺地域の記述から、関連情報を抽出する作業を行い、al-Iṣṭakhri, Ibn Ḥawqal, al-Muqaddasī, 等代表的なアラビア語地理書についてこれをほぼ終えた。また、所属する京都大学人文科学研究所において主催している共同研究「南アジア北辺地域における文化交流の諸相」において、関連する主題で研究報告と討論を行った上、11 世紀の Gardizi による著作、*Zayn al-Akhbār* の会読を行った。これは、同資料が既に散逸した 10 世紀

の Jayhānī による地理書を多く引用していると考えられるため、特にアフガニスタン、中央アジア関係の部分については内容を Ibn Rusta 等、他の地理書の情報と照合し終えた。さらにこれと並行して、『旧唐書』、『新唐書』、『唐会要』等の漢籍資料から、特に 7 世紀半ばの北部アフガニスタンに関する情報を抽出し、漢籍に見える地名とイスラム資料等から知れる地名を同定した略地図を作成した。これらの研究の成果の一端は、後掲の雑誌論文(特に②、③)において公表した。また、学会発表②、③の内容は、*Between Zābulistān and Gūzgān: A Study on the Early Islamic History of Afghanistan* と題する論文としてまとめ、*Studia Iranica* 特集号に掲載予定であるが、そこにおいては、文献史料に見える断片的記述を、新発見の考古遺跡、碑文と対照し、また 19 世紀の調査報告および 20 世紀の地図の記載を勘案しつつ、初期イスラム時代のハザーラジャート北部を通過する交通ルートの存在を明らかにした。

(2) 地図資料収集

Afghan Information Management が配布する 10 万分の 1 地形図、駐アフガニスタン国際治安支援部隊 (ISAF) 使用のアフガニスタン地域図の写し(一部)、を入手し、前述のソ連軍作成地図と比較照合した。その結果として、両者の間に誤差では済まされないような地名の食い違いがあることが判明した。このことは、今後アフガニスタン歴史地理を研究する上で既存の地図に十分な信頼を置くことができないことを意味している。結局、研究するケース毎に複数の地図と、関連文献の記述を比較した上で、適切な地名比定をその都度行う他ないということが明らかとなった。

(3) フィールド調査情報との照合

19 世紀以降の主要なフィールド調査報告については以下の文献を調査検討した。

- i. Charles Masson, *Narrative of Various Journeys in Balochistan, Afghanistan and the Punjab*, 3 vols. 1842, London, Richard Bentley.
 - ii. Alexander Burnes, *Cabool*, 1842, London, John Murray.
 - iii. *Records of Intelligence Party: Afghan Boundary Commission*, 5 vols., 1888-89, Simla (British Library Mss. Euro F112/388)
 - iv. M. G. Talbot *et al.*, "The Rock-Cut Caves and Statues of Bamian", *Journal of the Royal Asiatic Society*, 18, pp. 321-350.
 - v. Thomas Holdich, *The Gate of India: A Historical Narrative*, 1910, London, Macmillan.
 - vi. Mémoire Délégation archéologique française en Afghanistan, 特に A. Foucher, *La vieille route de l'Inde: de Bactres à Taxila*, 1942, 1947, Paris, Édition d'Art et d'Histoire.
 - vii. 京都大学イラン・アフガニスタン・パキスタン学術調査隊報告、特に、水野清一編『ハイバクとカシュミールスマスト：アフガニスタンとパキスタンにおける石窟寺院の調査、1960、京都大学人文科学研究所、バサーワルとジェラーラーバード＝カーブル：アフガニスタン東南部における仏教遺跡の調査 1963-1967、1968、京都大学人文科学研究所
- i.と ii.は、19 世紀前半にアフガニスタンに入ったイギリス人による報告、iii.は 19 世紀後半、ロシアとアフガニスタンの国境を策定する目的でイギリスが行った詳細な現地調査報告、iv.と v.はその現地調査に携わったメンバーによる個別論文と地誌、vi.は 1930 年代からアフガニスタンで発掘調査を行ってきたフランス・アフガニスタン考古調査団の報告書、vii.は同じく 1950 年代からアフガニスタ

ン、パキスタンにて発掘調査を行った京都大学調査隊の報告書で、ともに現地の地理と遺跡のロケーションに関する貴重な記録を含んでいる。特に、iii、iv、vに見えるいくつかの地名を実際の地図上で同定することに成功し、その成果は、学会発表③、④において公表した。

(4) 国際共同研究

研究当初から、オーストリア、フランス、イギリスの関連分野の研究者達と研究情報を共有してきたが、上述の通り、イスラム時代前夜の北部アフガニスタンについての略地図を作成する中で、オーストリア（ウィーン美術史美術館貨幣部門）の貨幣研究者達との議論を深め、このような歴史地図と既知の貨幣資料を有機的に統合し、できればそれを百年単位で作成することが必要であるとの認識にいたった。

このような議論と共同研究の成果を総括するため、2012年3月5日、6日の両日におわたって、京都大学および龍谷大学において、国際学会 Afghanistan Meeting 2012: Between Sogdiana and Gandhara in the Pre-Islamic Period を主催し、最新の研究状況の報告を行った。発表者と報告論文は以下の通りである。

- Michael ALRAM (ウィーン美術史美術館) : "Tepe Narenj, a Buddhist Monastery on the High Ground of Kabul: The Numismatic Evidence"
- 岩井俊平 (龍谷大学) : "Temporal Decline of Buddhist Sites in Tokharistan"
- 宮本亮一 (龍谷大学) : "Some Remarks on Bactrian Kadagstan"
- 吉田豊 (京都大学) : "When Did Sogdians Begin to Write Vertically?"
- Anna FILIGENZI (ナポリ東洋大学) : "Paintings from Mes Aynak (Afghanistan): Artistic Trends across the Hindukush"

- 上枝いづみ（龍谷大学）：“Siddhartha's Wrestling Match in Gandharan Narrative Reliefs”
- Erika FORTE（ウィーン大学）：“Traveling Objects: A “Buddhist” Network between Northwest India and Khotan”
- 影山悦子（関西大学）：“Wall Paintings from the Site of Kala-i Kakhkaha in Ustrushana”
- 司会および総合コメント:稲葉穰(京都大学)
(以上、発表順)

これらの報告は順次、雑誌論文等として発表される予定である。

なお、この学会を通じて、新たにウィーン美術史美術館およびウィーン大学の関連研究者と共同で、古代アフガニスタンの政治地図を貨幣、遺跡、文献を総合して作成することの合意がなされ、本研究を通じて作成した政治地図や地名リストなどはそこに統合して公表することとなった（このプロジェクトに対しては平成24年度から26年度の期間で、科学研究補補助金基盤研究(C)に応募し、採択されて、現在研究を遂行中である）。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計10件)

- ① 稲葉穰、「前近代史の中のコンタクト・ゾーン」、『コンタクト・ゾーン』4号、査読無、2012年、1-9頁
- ② 稲葉穰、「モンゴル時代以前の西トルキスタン—ソグディアナからガンダーラまで—」、『内陸アジア史研究』26号、査読有、2011、58-63頁
- ③ INABA, Minoru, Arab Soldiers in China at the Time of An-Shi Rebellion, *Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko*, vol 68, 査読無, 2011, pp.35-61.

<http://toyo-bunko.or.jp/newresearch/bo>

[ok_pdf/Periodical_list/MEMOIRS/Memoirs68/02_M.Inaba.pdf](http://www.iranicaonline.org/articles/ok_pdf/Periodical_list/MEMOIRS/Memoirs68/02_M.Inaba.pdf)

- ④ 稲葉穰、「ヘラートの「カーマ・スートラ」：中世アフガニスタンにおけるトランスカルチュレーション」、田中雅一・稲葉穰編『コンタクト・ゾーンの人文科学2: Material Culture 物質文化』、晃洋書房、査読無、2011年、3-37頁。
- ⑤ 岩井俊平、「カーピシー地域で出土する片岩彫刻の年代」、遠古登攀刊行会編『遠古登攀』、査読無、2010年、109-207頁。
- ⑥ INABA, Minoru, From Kesar the Kabulshah and Central Asia, In: M. Alram et al. (eds.), *Coins, Art and Chronology II*, Austrian Academy of Science, 査読無, 2010年、pp.443-455.
- ⑦ INABA, Minoru, Nezak in Chinese Sources, In: M. Alram et al. (eds.), *Coins, Art and Chronology II*, Austrian Academy of Science, 査読無, 2010年、pp.191-202.
- ⑧ INABA, Minoru, Kandahar iii: Early Islamic Period, *Encyclopaedia Iranica*, vol.15, 査読有, 2010, pp.477-478.

<http://www.iranicaonline.org/articles/kandahar-early-islamic-period>

- ⑨ 稲葉穰、「8世紀前半のカーブルと中央アジア」、『東洋史研究』69巻1号、査読有、2010年、151-174頁
- ⑩ 稲葉穰、「泥孰攷」、『東方學報』京都第85冊、査読有、2010年、674-692頁

<http://hdl.handle.net/2433/131768>

[学会発表] (計5件)

- ① IWAI, Shumpei, Temporal Decline of Buddhist Sites in Tokharistan, Afghanistan Meeting 2012: Between Sogdiana and Gandhara in the Pre-Islamic Period, 2012年3月5日、京都大学人文科学研究所。

- ② INABA, Minoru, Arab Soldiers in China at the Time of the An-Shi Rebellion, *Shifting Frontiers: Current Issues in the History of Early Islamic Central Asia*, 2010年12月17日、ライデン大学地域研究研究所 (オランダ)
- ③ INABA, Minoru, Between Zabulistan and Guzgan: Some Issues Related to the Historical Geography of Pre- and Early Islamic Afghanistan, *Crossing Borders: Pattern of Exchange across Afghanistan, Pakistan, Central Asia*, 2010年3月15日、ウィーン大学芸術史研究所
- ④ INABA, Minoru, Yakaulang and Ribat-e Karvan: A Study on the Historical Geography of Northern Hazarajat, *Afghanistan on the Crossroads of Civilization - in Retrospect*, 2009年11月14日、国立中央博物館 (韓国、ソウル)
- ⑤ INABA, Minoru, Sedentary Rulers on the Move: Travels of the Early Ghaznavid Sultans, *Turco-Mongol Rulers: Cities and City Life in Iran*, 2009年9月12日、東京大学東洋文化研究所

〔図書〕 (計3件)

- ① 田中雅一、稲葉穰 (共編)、『コンタクト・ゾーンの人文学 2: Material Culture 物質文化』、晃洋書房、2011年、257頁.
- ② 山内一也、岩井俊平、他 (共著) 『バーミヤーン遺跡の地下探査』東京文化財研究所文化遺産国際協力センター、2010年、219頁.
- ③ M. Alram, D. Klimburg-Salter, M. Inaba, M. Pfisterer (eds.), *Coins, Art and Chronology II: The First Millennium CE in the Indo-Iranian Borderlands*, Austrian Academy of Science, 2010, 470 pages.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年月日：
 国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年月日：
 国内外の別：

〔その他〕
 ホームページ等
 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

稲葉穰 (INABA MINORU)
 京都大学・人文科学研究所・教授
 研究者番号：60201935

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

岩井俊平 (IWAI SHUMPEI)
 龍谷大学・講師
 研究者番号：10392549